

龍造寺氏の村中城関連建物を初めて発見！

佐賀城内線改良工事に伴う発掘調査

調査の経緯

佐賀市では、西の御門橋から城内を東西に貫通する道路の改良事業とそれに伴う事前の発掘調査をおこなっています。これまで、西の御門橋部分の調査を2区、西濠の城内側の土塁の調査を3区、西の御門があった枳形虎口（2ページ参照）の調査を4区、その虎口から城内に通じる道路部分を5区として調査をおこないました。

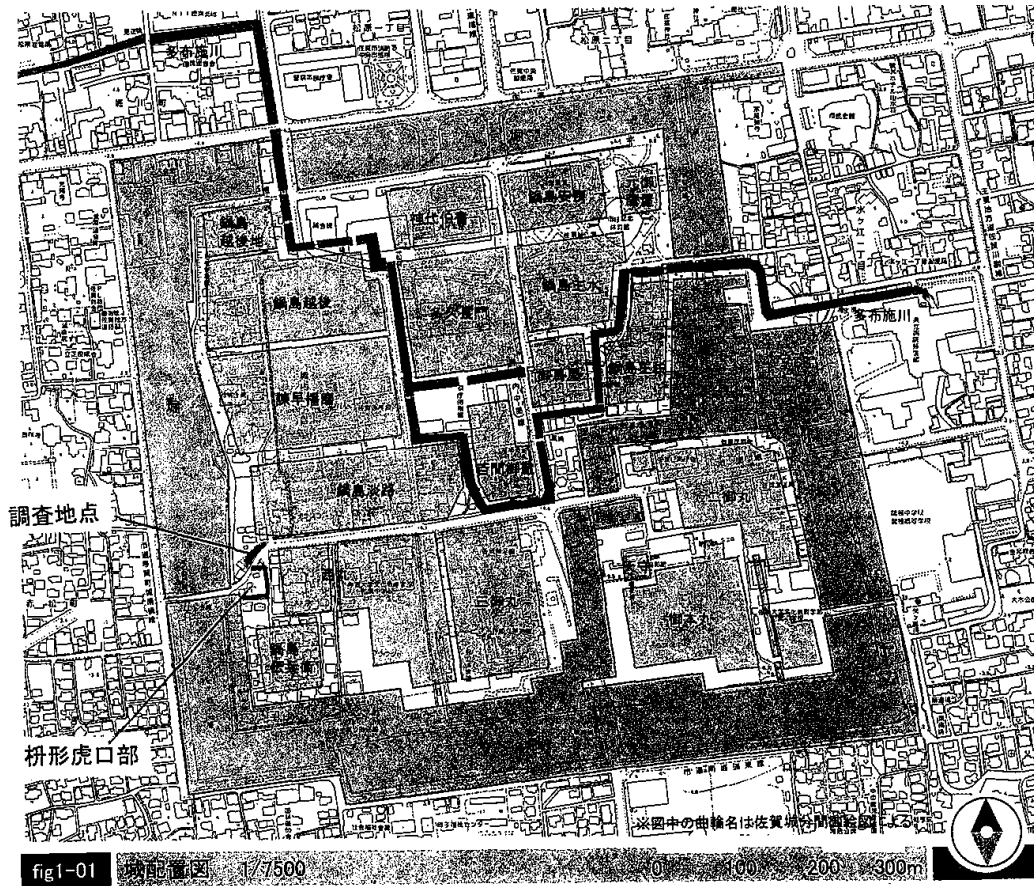
今回、現地説明会をおこなう5区の発掘調査は、2月16日から着手し、西半部が終了していますが、江戸時代の面の調査を終了した後、下層に古い時代の遺跡が存在する可能性があったため、トレンチを設定して更に掘り下げをおこないました。その結果、標高3m前後の江戸時代の遺跡の面から約80cm下げた所で鎌倉時代から室町時代の土器が出土する遺跡が確認されたため、この面での発掘調査を実施することになりました。

調査の成果

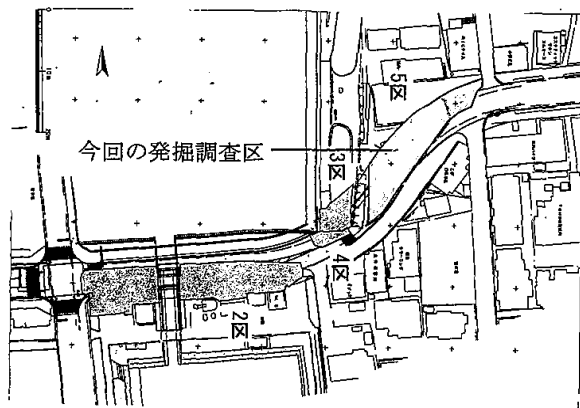
この面で発見された遺構の時期は、出土した土器より13世紀～14世紀の鎌倉時代のものと16世紀中頃～後半（室町時代～安土桃山時代）のもの、大きく2時期に分かれ、後者のものが大半をしめています。特に調査区の北半部で確認された16世紀中頃～後半の2棟の大型掘立柱建物は注目されます。



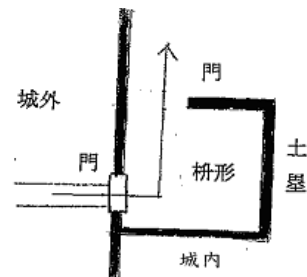
調査区遠景（南から）



「佐賀城公園整備工事報告書」 佐賀県文化財調査報告書第 161 集 161 の掲載図を一部改変して使用



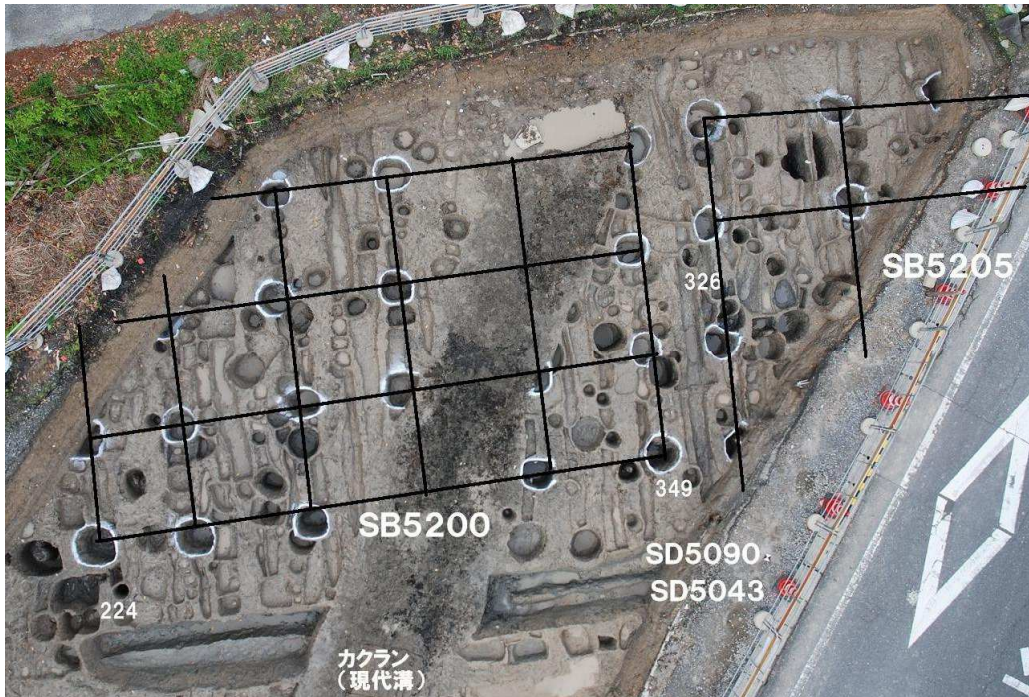
佐賀市内線調査区位置図



佐賀城分間絵図にみる
西の御門「枅形虎口」

枅形虎口（ますがたこぐち）

「虎口」とは城の出入りをさす用語。その出入りを防備するため、門の前面や内側に土塁や塀などで囲んだ平面方形のスペース(枅形)を作り、敵が城内に直進するのを防ぐ工夫を施した虎口を「枅形虎口」という。これにより、城内へ進攻する敵兵は二重の城門を突破しなければならない上に、狭い空間に誘導され「足止め」されるため、城兵から集中的な攻撃にさらされることになる。近世の城郭で発達する構造でもある。



大型掘立柱建物

ほぼ真北方向に軸をそろえて東西に並ぶ掘立柱建物で、2棟の建物（SB5200・SB5205）とも調査区外に柱が延びる可能性があり、現時点では規模を確定する事はできません。

SB5200 西側の建物で柱穴が更に北側と西側に延びる可能性はありますが、最小でも東西の柱間5間・南北の柱間3間の総柱の建物になります。柱穴間の心々距離（柱と柱の距離）は約2mで、柱穴は径・確認した面からの深さとも平均で65cm・柱痕（柱の太さ）径は25cmを測ります。

SB5205 東側の建物で調査区内で一部分を確認できたにすぎないため、規模・構造とも不明であり、隣接するSB5200と一連の建物になる可能性もあります。調査区内で確認できた建物の規模は東西の柱間2間・南北の柱間3間の総柱の建物で、柱穴間の心々距離は東西2.5m・南北2mを測ります。柱穴は平均で径55cm・確認した面からの深さ50cm、柱痕の径は20cmです。

区画溝 掘立柱建物の南側で重複するように掘られた2本の溝が確認されています。各溝の規模は北側SD5090幅75cm・検出面からの深さ70cm、南側SD5043幅105cm・深さ60cmを測り、2本の溝は土層の切り合いによる前後関係から、SD5043がSD5090の埋没後に掘削されていることが分かります。溝は建物と軸を同じくする事から、建物を区画するために掘られたものと考えられますが、SD5090の溝底からは腐った板材の一部が確認されており、溝の建物側に板塀が立てられていた可能性もあります。

まとめ

これらの建物遺構は、この時期の建物としては、佐賀平野の中でも群を抜いた規模であり、また、区画溝も含めて施設全体が計画的な配列になっていることから、一般農民や町

民層の生活施設とはみなしにくいと判断できます。

現在、市民の憩いの場となっている佐賀城公園は、慶長13～16(1608～11)年にかけて鍋島直茂・勝茂が拡張整備した近世の佐賀城の跡で、それ以前から同所には、龍造寺氏の居城である中世の佐賀城（別名「村中城」）が存続していました。16世紀後半頃に龍造寺氏の全盛期を築いた龍造寺隆信は、北部九州5カ国にまたがる大国の主に成長するのに伴って、代々の居城であったこの城を本格的に整備しています。鍋島氏はこれを母体として近世の「新」佐賀城を真上に築いたのです。今回発見された建物は、ちょうどその頃のもので、近世佐賀城の整地層の下に残っていた状態からしても、龍造寺隆信時代の佐賀城（村中城）か、その周囲の付属施設（武家屋敷跡や寺社跡）の建物跡になると考えられます。

龍造寺隆信期以前の佐賀城（村中城）の構造や規模については、近世佐賀城に覆い隠された状態になっているため、これまで具体的な事は全く分かりませんでした。今回の調査により、初めてその実像を知る手がかりが得られました。

関連年表

| 西 暦 | 年 号 | で き ご と |
|------|--------|---|
| 1546 | 天文 1 5 | 龍造寺家兼（剛忠）没、胤信（隆信）主家を継ぐ。 |
| 1551 | 天文 2 0 | 土橋栄益等による村中城の包囲、隆信村中城を明け渡す |
| 1553 | 天文 2 2 | 隆信村中城を奪回 |
| 1554 | 天文 2 3 | 大友義鎮が肥前守護になる |
| 1556 | 弘治 2 | 隆信の母、慶吟閨尼と鍋島清房が再婚する。 |
| 1560 | 永禄 3 | 織田信長、今川義元を桶狭間に破る |
| 1570 | 永禄 1 3 | 今山の合戦で大友親貞を討取る 大友と龍造寺和議、大友宗麟帰国する。 |
| 1573 | 天正 元 | 室町幕府滅亡 |
| 1578 | 天正 6 | 大友氏耳川の合戦で島津氏に大敗する |
| 1580 | 天正 8 | 龍造寺氏最盛期、隆盛、肥前・筑後・肥後半国に加えて、筑前9郡・豊前3郡に支配権を及ぼし、壱岐・対馬も帰順する。「五州二島の太守」と号する。 |
| 1582 | 天正 1 0 | 本能寺の変 |
| 1584 | 天正 1 2 | 龍造寺隆信、島津家久の軍と島原に戦い戦死 |
| 1587 | 天正 1 5 | 豊臣秀吉の九州出兵、島津義久を破る |
| 1588 | 天正 1 6 | 秀吉、長崎を直轄領とし鍋島直茂を代官とする |
| 1590 | 天正 1 8 | 龍造寺政家隠居、子の高房が龍造寺宗家を継ぐ、直茂が龍造寺領の国務をみる |
| 1591 | 天正 1 9 | 秀吉朝鮮出兵 |
| 1608 | 慶長 1 3 | 鍋島直茂、佐賀城の総普請をおこなう |
| 1611 | ～ 1 6 | |